

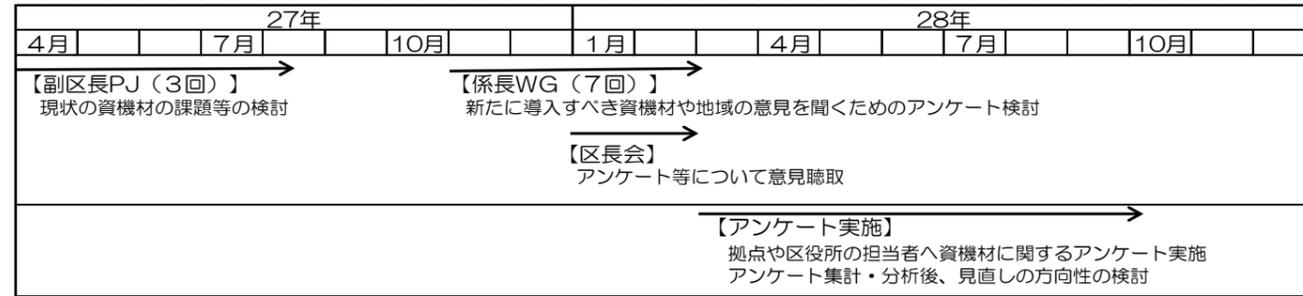
地域防災拠点の資機材見直しの方向性について

政策・総務・財政委員会
配付資料
平成28年12月15日
総務局

1 概要

地域防災拠点の資機材については、阪神淡路大震災を契機に整備しました。整備後20年が経過し、老朽化が進み、修理の際の交換部品の手配にも苦慮している状況です。さらに、地域からは、「一部の資機材について使い勝手が悪い」、「故障しやすい」などのご意見をいただいています。

そのため、拠点の備蓄庫にある全ての資機材について、27年度に総務局危機管理室と区により、見直しの検討を行いました。検討の結果、主に救助資機材についての課題が多く、あらためて、地域防災拠点や担当職員へのアンケートを実施し、**資機材の見直しの方向性をとりまとめました。**



2 地域防災拠点へのアンケートの主な結果について

資機材名	設問	アンケート結果
移動式炊飯器	課題	<ul style="list-style-type: none"> 約64%の拠点で「課題あり」と、課題認識が一番多い結果となった。 「取扱いが難しい」、「メンテナンスが大変である」という回答が多く、次に、「重量があり移動が困難」、「老朽化し故障しやすい」といった回答が多かった。
発電機 (ガソリン式・ガス式)	課題	<ul style="list-style-type: none"> ガソリン式発電機については、約58%の拠点で「課題あり」という結果となったが、ガス式発電機については、「課題あり」は約17%に留まった。 ガソリン式発電機の課題として、「燃料の保管・処分が困難」、「メンテナンスが大変である」という回答が多数を占めていた。 ガス式発電機の課題として、「ガスボンベの備蓄量を増やすべき」という回答が多かった。
エンジンカッター	発災時の使用者	<ul style="list-style-type: none"> 半数の拠点で、救出救護班が救助活動に使うという回答であった。 一方で、「消防団等の公的な機関」や「避難者の中で経験のある人」、「防災ライセンスリーダー」等が主に活用すべきという回答も多かった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 約59%の拠点で「課題あり」という結果となった。 「取扱いが難しい」という回答が多数を占め、次に、「メンテナンスが大変である」、「燃料の保管・処分が困難」といった回答が多かった。
投光器	発災時の使用場所	<ul style="list-style-type: none"> 当初想定していた「救助現場」で使用するという回答は少なく、体育館やトイレ、受付といった「地域防災拠点内」で使用するという回答が多かった。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 「課題あり」が約31%と課題認識が一番少ない結果となった。 「照らす範囲が狭い」、「台数が不足している」、「LED化して欲しい」という回答が多くあった。
救助資機材全般	課題	<ul style="list-style-type: none"> 「使用できる人が限られている」、「訓練の機会がない」という回答が多かった。

3 資機材見直しの方向性について

老朽化が進んだ資機材については、アンケート結果や区の意見等を踏まえて、次の方向性により、**緊急性の高いものから順次、対応する**予定です。

※写真はイメージです

資機材名	更新資機材	見直しの方向性
移動式炊飯器 	改良型移動式炊飯器 	<ul style="list-style-type: none"> 「老朽化し故障しやすい」といった意見が多いこと、及び、点検の負担感や、故障時の修理コストも非常に高いことから、最優先に更新していく。 震災時のエネルギー供給の途絶に備え、中学校ではLPガスを使用したガスかまどを、小学校では灯油等を使用した移動式炊飯器を備蓄している。中学校ではLPガスボンベの常備が完了したことから、小学校の拠点については、灯油等を使用する取扱いが容易でメンテナンスの負担の少ない、「改良型移動式炊飯器」へ更新していく。
ガソリン式発電機 	ガス式発電機 	<ul style="list-style-type: none"> ガソリン式発電機は、メンテナンスや取扱いが容易なガス式発電機に更新し、また、ガスボンベの備蓄を増量する。
エンジンカッター 	軽量型カッター 	<ul style="list-style-type: none"> 現行のエンジンカッターは、重量があり、メンテナンスが大変なことから、より軽量で操作やメンテナンスが容易な、例えばモーターを動力としたものへの更新を検討していく。 エンジンカッターの使用者については、防災ライセンスリーダーを引き続き養成していくとともに、より有効に活用するため、自衛隊、警察、消防なども使用することを明確にしていく。 訓練にあたって、これまで以上に消防署、消防団などの連携を深めていく。
投光器 	全方位型LED投光器 	<ul style="list-style-type: none"> 「救助現場」よりも「地域防災拠点内」で避難生活用として、使用しやすいものとする。 より明るい全方位型のLED投光器に更新していく。

※救助資機材を含むその他の資機材は、原則的に現状維持とし、拠点に残します。